丸くなる話

旭川市医師会
道北勤医協一条通病院
黒須（くろす）　拓郎（たくろう）

最近、世の中がやけにギスギスしている。やたらと権利ばかり主張し、他者の気持ちを慮ろうとしない。おあいこで良しとせず完膚なきまで叩きのめす、引きずりおろすまでやめようとしない。ああ嫌だ。

みな、もっと丸くなろう。今の社会に必要なのは、とがることではなく丸くなることだ。そこにきて絶好のお手本となる生物がある。ダンゴムシだ。

わたしは幼少時からダンゴムシが大好きである。彼らは危険を感じると丸くなる。われわれ人間もそろそろ、彼らに学ぶべき時分かもしれない。世の中をもっと丸く生きやすい世の中にするために、知っているようで知らない彼らの魅力をご紹介しよう。

①名前の秘密

和名はオカダンゴムシ。団子みたいな虫。ところが、英名ではpill bug（お薬の玉みたいな虫）という。なんと、私たちの業界にも深いつながりがあったのだ！

②ダンゴムシとは名ばかりで

ダンゴ“ムシ”と呼ばれているが、実は甲殻類。エビやカニと同じ仲間である。食べると意外に旨いかも！？しれない。

③変なこだわり

甲殻類なので何度も脱皮して大きくなる。この“服の脱ぎ方”にこだわりがある。必ず下半身から先に脱ぐ。なんともセクシーである。数日かけて上下とも脱皮する。脱皮した殻は捨てず、もぐもぐ食べる。なんともエコである。（エコでセクシーといえばいつぞやの環境大臣を思わせる…）

④妙なクセ

ダンゴムシには妙なクセ（習性）がある。彼らは、分岐路に差し掛かるたび曲がる向きを左右ジグザグと変えて進む。例えば、札幌中心部のような“碁盤の目”の道路であれば、北→東→北→東といった具合に進む。これを「交替性転向反応」という。敵から逃げる時に同じ場所でグルグル回ることがないようにとか、エサを探す時により遠くに探しに行くことができるためとか、理由は諸説ある。しかし、本音はダンゴムシに聞かないと分からない。

⑤丸くなっている時間

この問いこそ私が幼少時からずっと抱いていた疑問であり、また、生涯の研究テーマでもある。時と場所を変えてこれまで３回ほど実験したが再現性がなく（１／２／３回の結果はそれぞれ27.72／6.16／33.66秒、エラーバーが大きい…）、未だ論文発表には至っていない。新進気鋭の若手研究者、助手として力を貸してくれる方を募っている。

この記事を読んで、少しでもみなが丸くなってくれると幸いである。

ゲーム機争奪戦

札幌市医師会
手稲渓仁会病院
箱山（はこやま）　聖子（みなこ）

2025年６月５日次世代機として話題になっていた「Nintendo Switch２」が発売された。それをきっかけに、初代 Nintendo Switch が発売された頃のことを、久しぶりに思い出した。

初代スイッチが発売されたのは 2017年３月３日。当時、我が家の子どもは、小学校１年生と幼稚園の年少さんだった。春の発売だったものの、少なくとも夏頃までは「手に入る見込みはほとんどない」という空気が続いていたように思う。

それが秋を過ぎ、クリスマスが近づくにつれて、ちらほらと「もう持っている」という話を耳にするようになり、親のほうが次第に落ち着かなくなっていった。サンタさんが持ってきてくれると信じて疑わない子どもたちを前に、同じように小学生・幼稚園児を抱える家庭同士で、どこに入荷した、抽選に当たった、といった情報を共有しながら、皆で必死になっていたのをよく覚えている。我が家が入手できたのはクリスマスの１週間前だった。

それに比べると、今回のスイッチ２は、転売を防ぐために、各店舗が発行するクレジットカードでの決済に限定するなど、販売方法自体が工夫されていた。我が家も、たまたまその条件に合っていたことで、結果的に購入することができた。

あの頃、サンタさんがスイッチを難なく持ってきてくれると胸を弾ませていた子どもは、今では中学３年生と小学６年生になり、我が家にはサンタさんは来なくなった。

今回の購入については、「受験が終わってから使っていい」という話で、中学３年生にだけ伝えた。（購入できた喜びで思わず伝えてしまったのが真実だが）小学生の弟は、まだそのことを知らない。

ゲーム機の話題ひとつで、あの頃の慌ただしさがよみがえる。それは、手に入るかどうかに一喜一憂していた忙しさだけでなく、幼い子どもたちの毎日に追われていた、子育てそのものの慌ただしさでもあった。今はその熱気も落ち着き、箱に入ったままのゲーム機が、静かに出番を待っている。